

特定非営利活動法人ピレッジならかわ

所在地 塩尻市木曾平沢2174
電話番号 0264-34-1122
URL <http://www.filmcommission.jp>
法人設立(登記)年月日 平成16年(2004年)10月7日

～ 合併後の村づくりのモデル 住民の力で地域の課題を解決 ～

◇ 合併後の村のあり方を考える

旧榑川村は、信濃川・奈良井川水系、全長370kmの最上流部30kmに位置し、自然豊かな森と水、そして木曾の街道文化・伝統産業など長い歴史に育まれてきました。平成17年4月に旧榑川村が塩尻市に編入合併しました。

「村民のほとんどの方は同じ中学校の卒業生で、「榑川村」という「たが」の中で、文化を育んできた。合併により、その「たが」が無くなってしまふ。村の個性が無くなってしまふのではないかと心配だった。」と事務局長の巢山泰生さんは話されます。また、理事長の長谷川広咏さんは「地域のグローバル化により、長い歴史や文化に育まれてきた地域の特性、あるいは個性というものが徐々に忘れられたりしている。小さな単位、あるいは個というものが益々、見えにくくなってしまふ。」と感じたとのことでした。

合併後の村のあり方を考えるために、合併する前の平成16年10月に法人が設立されました。



◇ 村が消える「これじゃあいかん」

～自分達でやれることは自分達で～

塩尻市と合併する際、合併協議会が設置されました。平成9年3月から1年半の間、村内外の方、役場の若い職員も入って、30人位で、村のあり方・合併に関して色々な角度から話し合ってきました。

その中で、多くの方が感じたことは「今まで行政に陳情して、色々つくってもらってきた。それが、村の存続を危うくした一因でもある。行政への陳情型だけではだめだ。自分達でできることは自分達でやってみよう。」ということでした。

「地域住民自身による地域づくり」を念頭に生活を見直せば、行政に依存せず住民独自でできる活動が沢山あると気づいたとのことでした。

そこで、全戸がNPO法人に加入し、村づくりを進めているという岐阜県のある村の例を参考にして、NPO法人による村づくりを選択しました。

法人は、村の長い歴史や文化に育まれてきた地域の特性や個性を大切に、一人一人の



顔が見える個性あふれる地域づくりを目指すために、人材活用委員会・IT事業部・環境事業部・健康福祉事業部・フィルムコミッション事業部の5つの事業部をつくり、それぞれが活発に活動しています。

◇ 映画やCMの撮影を誘致

フィルムコミッション事業部では、映画・テレビ・CMの撮影誘致を行っています。映画やCMの撮影依頼が年間50件位あり、ロケ地の情報提供、エキストラの手配、ロケハンへの同行、弁当やタクシーの手配等を行っています。

信州フィルムコミッションネットワークには、長野、上田、諏訪、松本、塩尻・木曽の5ヶ所が加入していますが、民間でやっているのはこの法人だけです。民間であることのメリットを最大限に活かし、小回りよく対応しています。

平成18年11月には塩尻市で、「フィルムコミッションと地域づくり」と題したシンポジウムを開催し、木曽郡・塩尻市の住民300名が集まりました。

このフィルムコミッション事業は、塩尻・木曽を全国にPRし、観光客の誘致を促進できるという効果もありますが、経済的な波及効果もとても大きいと言えます。ロケ隊の宿泊、宴会、タクシー、弁当、土産と色々な形で地元にお金が落ちます。



◇ 人は地域の財産

人材活用委員会では、限られた地域の人材を活用するとともに、共に助け合い、豊かに生活できる人材を育成しています。

写真は榎川中学校の皆さんが、地域の独居老人宅、公共施設、駅付近の雪かきをしている様子です。法人が学校のボランティア委員会、中学校、社協と連携し、中学生が学校の休みの日に独居老人宅の除雪を行うというものです。取組み始めてから3年目になりますが、地域の方々に大変喜ばれており、今では中学生全員がやっています。中学生にとっても、訪問先で老人と話しをし、老人の知恵に触れることは、大変良い経験になっていると思われま



郷土に誇りや愛着を持ち、「榎川」を背負ってたつ次世代の人材育成をすることは、コミュニティを存続させていく上で、とても大切なことです。

◇IT技術の向上が地理的な不便さを埋める

IT事業部では、地域のIT技術向上のため、中学校のパソコン教室を利用して講習会を開催しています。年5回のコースは、いつも募集開始日のうちに定員がいっぱいになるという盛況ぶりです。

また、塩尻市市民ポータルサイトの管理運営も行っています。



◇「自分たちの手でできることは自分たちで！」

と、環境事業部では、豊かな自然に恵まれた地域の自然を住民自らが守っています。道の駅「楢川」に自主的に設置してあるゴミ箱のゴミを定期的に回収し、不法投棄パトロールを月3回行っています。また、不法投棄回収業も定期的に行い、特に春と秋には国道19号環境パトロールを実施しています。毎回、100人位の参加があります。

他にも、森林環境整備として、緩衝帯整備事業や環境教育への協力を行っています。



◇「顔」が見えるきめ細やかなサービス

「村役場の職員は村民全員の顔を覚えていた。個人の顔が見えるきめ細やかなサービスを引き続き行っていきたい。」と巣山事務局長は話されます。

健康福祉事業部では、そのサービスの一つとして、移動支援を行っています。障害のある方、高齢者等にとって、移動は切実な問題です。法人ではそうした方のために、過疎地有償輸送サービス事業を実施しています。透析が受けられる塩尻市の病院に通院する高齢者等に大変喜ばれています。

また、今年の4月から障害者の共同作業所の運営を受託し、新たに障害のある方への就労支援を始めました。高齢者も、障害のある方も、だれもが安心して楢川に住み続けることができるよう活動しています。



◇合併後の村づくりのモデル

法人のこうした取組みは、合併した後の村づくりとして一つのモデルであると言えます。村という行政単位がなくなっても、NPO法人が中心となって、地域の課題を解決し、さらに村の個性を創出しています。

巣山さんは最後に「一つの自治体の中に、それぞれ個性のあるコミュニティーがいくつもあっていいのではないか」と話されました。

(訪問者 NPO 活動推進室 飯沼智成)